

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名 (四日市商業高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	校訓である「至誠」の精神のもと、商業教育・普通教育を通じて知・徳・体の健全な成長を促し、地域と連携しながら専門性の高い社会人を輩出できる学校	
(2)	育みたい 児童生徒像	21世紀社会で活用できる知識・スキル・専門性を備えるとともに、主体性・協働性・積極性を持ちながらも礼儀やマナーをしっかりとわきまえ、良好な人間関係を築き社会での問題を解決できる能力を持ち活躍できる人材
	ありたい 教職員像	よりよい教育活動を目指し、創意工夫し前向きに「やってみよう」の精神で取り組むとともに、生徒一人一人を大切に、地域や保護者とも連携し、協働性をもって組織として力を十分に発揮できる職員集団

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>【生徒】約6割の生徒が地元企業への就職を希望し、約4割が上級学校への進学を希望している。就職では特に事務職に就くことを望む生徒が多い。安定した学習環境を望み、各種検定や資格取得、充実したクラブ活動に期待している生徒が多い。</p> <p>【保護者】学力の向上、挨拶やマナー等の社会性の向上を期待するとともに、希望進路の実現には強い関心がある。また、安心・安全の観点から学校からの情報発信の充実を望む声が多い。</p> <p>【企業】商業関係のスキルはもとより、挨拶や人間関係構築などコミュニケーション能力を備えた人材の提供を望む声が多い。</p> <p>【地域】地域社会の行事などへの生徒の参加、参画による連携や交流を通じて地域活性化への寄与が期待される。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>【家庭】適切な連絡や学校からの情報提供、相談体制の充実</p> <p>【中学校】卒業生による説明会参加等を通じて実際の高校生活にかかわる情報提供</p> <p>【企業】就職後のアフターフォローと生徒情報の提供</p> <p>【大学等】高校からの継続した連携、大学の紹介等の機会設定</p> <p>【地域社会】開かれた学校経営。地域との連絡や共同活動、情報共有機会の増加</p>	<p>【家庭】学校行事やPTA活動への積極的参加。学校教育への理解と支援及び確実な連絡体制。</p> <p>【中学校】適切な進路指導、キャリア教育の実践。生徒についての緊密な情報交換。</p> <p>【企業】積極的求人、インターンシップ等への理解・協力。</p> <p>【大学等】卒業生の受け入れのほか、講師派遣や高校生への直接指導など高大連携。キャリア教育・授業改善への取り組み。</p> <p>【地域社会】通学等の安全確保や学校への様々な支援、応援。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>地域連携、検定結果等の実績回復が志願者増にも反映している。学校の発信力を高め学校のブランド力強化を図ってほしい。3年間を見通した状況提供やキャリア教育の充実、質の高いビジネスマナーの習得も学校の武器にしていく。部活動の充実も総労働時間の縮減を課題にしながら本校の特色として大切にしていってほしい。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の充実が最も急がれる。基礎学力の底上げはもとより、地域と連携した取り組みや商業の授業内容や活動内容の質の向上が求められる。 ・「人づくり」については四商の良き伝統を大切にしながら、基本的な生活習慣の啓発、改善のみならず質の高いビジネスマナーの習得を本校の武器にしていく。 ・クラブ活動については学習とのバランスや教員の過度な負担の軽減を考え、精選していく(インターハイ、国体に向けた強化との整合性をどうするか)
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科での学習内容検討や授業力向上の組織的な取り組みが必要。教科会とカリキュラム委員会との定期的な連携に取り組む。 ・本年度効果のあった取り組み(地域連携、課題研究)をさらに進めるとともに、メディアの活用、広報活動にも積極的に取り組みPRに努める必要がある。 ・教員の仕事の隔たりや過度な時間外労働の縮減への取り組み、職員の情報共有・コミュニケーション機会を増やす。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・校訓である「至誠」の示す人格形成を大切にしながら、21 世紀社会で求められる資質・能力を研究したうえで「本校の目指す人づくり像」を明らかにしていく。このようなカリキュラムマネジメントに基づき、自らの授業改善、教育改善を教員自身が考えていきたい。(考えを深めるための情報提供を積極的に行っていく) ・「思考力」「表現力」「課題発見・解決力」「専門性」「協働性」といった「今後の社会で生き抜く力」「社会に貢献する力」を学校教育全体ではぐくんでいく。(授業、特別活動、部活動を通じた資質・能力の向上) ・校内の仲間、教員など狭い範囲にとどまることなく「地域の大人」「他校生徒」など「他者」との対話・交流を通じて積極的、主体的な人間性や課題発見・解決力をはぐくむ探究活動に取り組む(課題探究、ジョブシャドウなどの質の向上) ・インターハイに向けた部活動の強化と人間力向上のための部活動・特別活動のバランスを考えて活動に取り組む。その中でいかにして教員の負担軽減をはかるかを考え、具体的な実践に変えていきたい。(部活動マネジメントを絵に描いた餅にせず中期的な課題解決につなげる)
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の仕事の偏重を解決するための具体的は方策に取り組む。そのための聞き取りとアイデア集め。また、生徒の主体性を高めることによる教員の負担軽減にも取り組む必要がある。 ・新たな傾向の資格試験や共通テスト、新学習指導要領への対応を進める。カリキュラム委員会と各教員との連携を深め、具体的な対策を提示する。 ・情報マネジメント科の姿を具体的に描き、授業改善・進路指導につなげることで「就職も進学も強い四商」「多様な進路」「いかにして地域貢献できる学校にするか」を内外にPRし、生徒確保と地域におけるさらなる高い評価につなげる。 ・資格取得と部活動のバランス、基礎知識習得と思考力・表現力など活用力のバランス、教員の負担軽減のためのスクラップアンドビルドなど、協力してバランスのとれた学校運営の方策を実践していく。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
基礎学力の向上と学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆学力向上とそのチェックのため基礎力診断テストを導入 【活動指標】基礎力診断テストを全学年で実施。結果を教科指導・進路指導に生かすため勉強会を実施。 【成果指標】4月にテストを、5月に勉強会を実施し振り返りを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ◆基礎力診断テストは予定通り勉強会も含めて実施。来年度からは新たな「学びの基礎診断」を実施。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ◆社会で求められている商業教育について研究し、現行の問題点を洗い出し、授業改善に取り組む 【活動指標】昨年度卒業生の就労先企業にアンケートを実施 【成果指標】アンケート結果をもとに改善が必要な分野での次年度の授業計画に反映させる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆卒業生へのアンケートからマーケティング分野へのアプローチ、コミュニケーション、プレゼン能力の育成が求められていることがわかり、今後は特に「総合的な探求の時間」を中心に取り組んでいく。 	

<p>キャリア教育 と探究活動 の充実</p>	<p>◆目標に応じた検定取得。より上位の資格取得を目指す。 【活動指標】検定週間、検定前補習、学期ごとの補習の実施 【成果指標】検定3冠100人、1級合格者述べ400人、検定合格率90%</p> <p>◆21世紀社会で生きていくための思考力、専門性、問題発見・解決力を高めるため多くの活動に生徒を積極参加させ、行動し、考える機会を増やす。 【活動指標】1年しごと密着体験、2年インターンシップ、3年課題研究の探究活動を充実させ、クラブ単位での外部連携など地域の中での自分を意識したキャリア教育を高める 【成果指標】年度末に生徒と連携相手先へアンケートを実施し、振り返りにつなげる。</p>	<p>◆検定等については特に上位資格の検定が難化していることもあり十分な成果目標を達成することができなかった。</p> <p>◆外部連携、インターンシップ、課題研究などは進んだ面が多かったが、主体的に生徒が校内外の活動に参加するレベルまでは達しなかった。来年への大きな課題である。</p>	
<p>人づくりの 「深化」</p>	<p>◆社会で有為に生きるための基礎づくり、人間づくりに努め、その意義を生徒に浸透させる 【活動指標】風紀週番制度を社会に出るトレーニングととらえ、活動に丁寧に取り組むことで責任感、協調性を養う。挨拶の励行、遅刻者減少の取り組みなど社会人としてのマナーを身に付けさせる。 【成果指標】当番忘れによるやり直し6%以下。遅刻率 0.1%以下。登下校指導による指導生徒数 5 人以下。</p> <p>◆部活動、生徒会活動の充実とそれらを通じた人づくりを行う 【活動指標】全クラブが活発に活動し、主体的な生徒会活動を展開する 【成果指標】東海大会出場15クラブ以上、全国大会出場10クラブ以上、学校生活アンケート部活動への取り組みが熱心になった85%以上。</p>	<p>◆生徒指導部の活動による風紀当番等のトレーニングは昨年度より数字は上がっているが目標までは届かず。登下校指導による指導は進んだ。</p> <p>◆部活動についてはハンドが全国優勝、バスケが全国3位など全国は12クラブが出場、それ以外のクラブも成果を出せた。生徒会活動においては行事の精選、整理を行ったが、主体性を育む面でまだ不十分なところがあったのでぜひとも来年度につなげたい。</p>	

改善課題

新学習指導要領への対応、新たな社会への対応といった面で一歩進めることができた。しかし、「進学も就職も四商」というアピールをするには進学面での3年間を見通した計画を前進させる、新たな検定に対する対応など授業も含めた改善点は多い。キャリア教育の充実では主体性を伸ばす取り組みを来年度の大きな目標にしていきたい。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
魅力化アップと将来像検討	<p>◆在校生の意見を積極的に取り入れ、学校案内やポスターなどの効果について検証する。アンケート結果も加味する。</p> <p>【活動指標】課題研究の高校生活入門講座とタイアップして充実を図る。情報マネジメント科の生徒からも意見を収集し、見直しを進める</p> <p>【成果指標】刊行物の効果を高め情報マネジメント科の倍率を上げ、後期入学者選抜での定員割れをなくす。</p> <p>◆平成 31 年度以後の学科のあり方を具体的に検討する</p> <p>【活動指標】商業科検討委員会を 10 回以上実施する</p> <p>【成果指標】情報マネジメント科の具体的なビジョンを提示する</p>	<p>◆学校案内の改善、生徒による中学校への紹介など努力しているが情報マネジメント科の魅力を発信しているまでには至らない。来年度の大きな課題である。</p> <p>◆商業科検討委員会は予定通り実施し、具体的なビジョン、実践方法まで示すことができた。特別支援委員会、教科担当者会議など情報共有は活発にできるようになっており生徒への寄り添う指導に反映できている。</p>	
生徒の資質・能力の向上と学習内容の検討	<p>◆科目代表を中心に各科目の情報共有を図り、改善に取り組む</p> <p>【活動指標】担当者による定期的な打ち合わせや授業公開週間(年間 5 回以上)を有効に利用し、授業見学・意見交換に積極的に取り組む</p> <p>【成果指標】結果を年度末に総括し、次年度の取り組みに生かす</p>		
生徒ひとり一人を大切に	<p>◆生徒の情報交換、特別支援教育委員会など教員間、学年間の情報交換を密にする</p> <p>【活動指標】特別支援教育委員会年間 5 回以上、教科担当者会議も実施し、連携を円滑にし、緊急時の対応もスムーズに行えるようにする。</p> <p>【成果指標】特別支援教育委員会年間 5 回以上。</p>		
働きやすい職場づくり	<p>◆過重労働を減らし、教員同士のコミュニケーションを図ることで働きやすい環境を作り出す</p> <p>【活動指標】会議はすべての会議を 1 時間以内にする。定時退校月 1 回以上、部活動の週 1 回以上の休養日設定。また、インターハイ、国体への強化と休養(生徒教員とも)とのバランスをとった活動を目指す。</p> <p>【成果指標】時間外労働削減率前年度平均 25H から 3H 削減。80 時間以上の教員数を延べ昨年 32 人から 28 人に削減。休暇取得昨年よりさらに増加させて平均 21 日に。会議・定時退校・部活動休養日は目標達成 100% を目標にする。</p>	<p>◆会議の精選、定時退勤についてはある程度の成果は出すことができたと思うが教職員の満足度アンケートの結果を見るとまだまだ改善の余地がある。</p>	

改善課題

新たになる情報マネジメント科は校内では方向性も決まり、具体的実践計画を立てている最中である。ただ、なかなかそれを中学生、地域にはうまく発信できていない気はする。来年度になって具体的実践が始まればその良さを見直されると考える。まずは新たな教育計画とともに成果を出したい。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none">・活動指標がしっかり出ているのはよい。・地域連携を目指されているが中学校との連携においてももう少しできることがあったのではないかと思う。来年度はもっとコミュニケーションをとって連携を深めていきたい。・スマホの扱いについては時代の変化に応じて考えていったほうがよいのではないか。・女子が多いこともあり、特に冬場の帰宅についてさらなる配慮をお願いしたい。・本校の挨拶運動は非常に良い。・不祥事根絶について、特に若い教員にはさまざまな場面で教えてあげなければいけないことが多い。
---------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・「学びの基礎診断」を1年2回、2年2回、3年1回実施することで基礎的な知識だけでなく思考力・表現力・判断力を普通教科においても高めていく材料にしていく。また、この実施は3年間を見通した進路計画の充実にもつながる。・しごと密着体験を廃止することで教員の負担を軽減する一方で1年時から地域連携を積極的に行うことで探究学習につなげる。また、地域における協力者をコーディネータとしてお願いすることで直接、生徒が高い志を持ったホンモノの大人と交流する機会を多く持ち、「開かれた教育課程」の実践を進める。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・校訓である「至誠」の心をしっかりとしたベースにおきながら、キャリア教育・人権教育を充実させる。それによって生徒には主体性・行動力を養うとともに、教員にとっては「ひとり一人を大切に」「生徒に寄り添った」教育を展開する。・教育活動や行事を見直し、教員の負担の軽減を図るとともに教員個人の志に応じた研修の機会を設け、力量アップを図っていく。また、日常業務や研修の機会を通じてコンプライアンスに対する意識を高める。